

ベルギー 新型コロナ

このような時のオンコール

翌日休暇に出かけるというその夜、ニコラスとサンドラの所にベルギー赤十字社から連絡が入りました。その時は気づきませんでしたでしたが、この決断によって、彼らはパンデミックによる最もコロナ感染のひどい地域に行かなくて済んだのです。

金曜日の夜、OMベルギーで働くスイス人夫婦のニコラスとサンドラは、翌日から休暇に出かけるための準備をしていました。荷造りはまだこれからでしたが、1ヶ月分の食糧の買い出しは済み、休みから帰ってきた後の食事心配の無いようにしてありました。「私たちはいつも1ヶ月分の食料を自宅に保管しているんです。OM災害対策チームの一員として、自分たちが人々に教えていることはちゃんと実践していますよ。」とニコラスは話します。

実際に、彼らのこの教訓は、今回の新型コロナウィルスによるベルギー都市封鎖の際に、とても役立つことは言うまでもありません。

翌日休暇に出かけるというその夜、ニコラスとサンドラの所にベルギー赤十字社から連絡が入りました。すべてのボランティア職員に向けて、現場の必要性が増したことによる出動の要請でした。この夫婦は、これまでの7年間、赤十字で

ボランティア救急隊員として活動していました。この緊急の要請を知り、ニコラスとサンドラはすぐに休暇の計画を取りやめました。その時は気づきませんでしたでしたが、この決断によって、彼らはパンデミックによる最もコロナ感染のひどい地域に行かなくて済んだのです。

「もし休暇でその場所へ出かけていたら、私たちはそこに隔離されたままになっていました。振り返ってみると、すべてが整えられていました。ここに留まり、救急隊員として働くことができることは決して偶然ではありません。」とサンドラは確信します。

OMベルギーは、彼らが赤十字で十分活動できるよう、この夫婦が担当していたチームの事務管理と、現在は閉まっているゲストハウスのメンテナンスの責任から外しました。ニコラスとサンドラは、赤十字との契約を週1日から週5日に増やしました。

内面P2に続く

» このような時のオンコール

» あなたを信頼します

» イスラエル教会への視点



P1-2



P4



P3



OM 船ロゴス ホープ号の近況



新型コロナウイルス (COVID-19) の影響 について

ロゴス・ホープ号は今年初め、当時航海していたヨーロッパを離れ、カリブ海のジャマイカに停泊。そして3月中旬に、今年7月までの（3ヶ月間の）活動停止とカリブ海における滞在を決定しました。船内感染を防ぐため、地元の教会への協力、船内と船外における伝道活動や人の往来も感染経路を断つため全て失くしました。船員のスピリットは非常に良く、日常船内業務の時間の他は「訓練」にそのフォーカスをおき、聖書の学び、宣教学の学び、また小グループによるデボーションなどをおこなっています。引き続きOM船とクルーのためにお祈りください。



現在はアメリカのカラカスコロライナ州

ロゴスホープ号に乗船している中道実由香さんからビデオレターが届きました。ぜひ観てください！



行こう

ロゴス・ホープ号

- 📍 世界中 船 1年間もしくは2年間
- 👥 ロゴス・ホープ号には常時60カ国から400人以上の人が乗船し、船内にはギネスブックにも載った「世界最大の移動本屋」もあります。参加者はボランティアクルーとして乗船しながら様々な国を航海し、寄港先と船内でミニストーリーをします。ロゴス・ホープ号乗船中は、毎日決められた部署での仕事を行い、さらに様々な形式の宣教と弟子訓練に参加していきます。

- 👤 年齢制限：18歳以上
- 💰 毎月750 USドル

なぜ、リスクを負うのか？

「なぜあなたは救急隊員として感染の危険に身をさらすのですか？」と近所の人が見かねました。

「私たちがしなければ、誰がするでしょう？神様は私たちが人を助けることを望んでおられ、私たちはこれをするべきだと信じています。」とサンドラは熱く答えました。

近所の人、彼女が神様を信じていることに興味を持ち、会話は信仰に関する内容へとこれまでにない形で発展しました。「今、人々は不安を抱え、ストレスがたまっています。ですから、信仰についても心が開かれています。私たちは本当に良い話ができる」とサンドラは言います。

一方、ニコラスは「まさに、火が燃えている建物の中にいる消防士のような感じですよ。」と今の状況を説明しています。「でも、御心になかった事をしているという確信があります。」防護服に身を包み、ニコラスとサンドラの仕事は、新型コロナウイルス感染者の搬送の為、赤十字の救急車で病院間を行き来することでした。「実は、私は買い物でショッピングセンターへ行くよりも、救急車の中のほうが安全に感じているんです。ここでは、何に触ったかがはっきりわかっているので、それらをすべてきれいにすることができます。」

イエス様に従う者として、無責任な行動をしたり、不必要に身を危険にさらすことはいけないとニコラスは考えています。しかし、彼らはイエス様との永遠の命を得ているので、絶対的な安心があります。「恐れる必要はないのです。死んだ後に、どこに行くのかを知っていますから、この平安を分かち合いたいと願っています。信仰は、このような状況下で働く私達に力を与えてくれます。」

何があなたをそうさせるのですか？

同僚の医師や他の救急隊員から、「あなたたちは他の人達と違いますね！」と言われます。ニコラスはそれを聞いて驚き、「私たちがどのように違うのか、よく分かりませんが。」とサンドラも付け加えます。

ただ彼女が感じているのは、手袋を付

けたままであっても、患者の手を握ってあげたり、感染者に敬意をもって接したりするといった小さな行動が、福音を表現する形となって、他の人々に大きな影響を与えているのかもしれないということです。しかし、彼らのこういった行動だけで、彼らが他の人たちと違う理由にはならないことは明らかでしょう。「私たちが唯一言えることは、イエス様の愛が、私たちを通して現されているのだと思います。」と彼女は話してくれました。

ニコラスとサンドラの赤十字の同僚たちは、「このような時に本当に信仰は役に立つのだろうか？」という質問を思いつらしていました。ある同僚はその日、老人ホームで亡くなった方の部屋を片付けて、ウイルスが付着しているような物を全部焼却するという辛い仕事に携わりました。この経験は彼にとってとてもショックなことでした。翌日、同僚は、ニコラスに声をかけ、二人きりの所で彼に、「君こそ、真実の答えを持っていると思うんだ。」と話したのです。そして、ニコラスに彼の信仰について話してくれるよう願ったのです。

「そう、僕たちは答えを持っています！」ニコラスは大きくうなずきました。

彼は、神様こそが、このような状況の中で、神様の真理と希望を人々に分かち合う為に、この特別な機会を与えておられることを強く感じています。彼らが救急隊員になったのも、人々の間にいて、彼らに福音を伝えるためなのですから。



皆さんの献金は神様の愛を知らない人々の間で続けられるミニストーリーと、そこで活動する宣教師とその家族の必要の為に用いられます。献金先は、OM日本宛まで、通信欄に「新型コロナウイルス支援」とご明記ください。

- 🌐 www.omjapan.org/give
- 📠 郵便振替口座 02100-0-24998
加入者名「OM日本事務局」



日本 アルゼンチン

神様、あなたを信頼します

「私の夢はいつも、宣教師になることでした。」アルゼンチン出身で22歳のマルシア・ゴンザレス続けて言いました。「私の両親は牧師で、私もいつかは教会の仕事がしたいと思っていたんです。でも、心のどこかで、私はきっと、アルゼンチンから遠く離れた場所に行くのかもしれないと感じていました。」

自分の宣教地は日本だとはっきり確信するまで時間がかかりました。「私はこのことについて3年間祈りました。ただ、日本の文化が好きだからとか、日本に行きたいからという理由ではなく、本当に神様の御心がどうかを確認したかったからです。そして神様はその祈りに答え、様々な機会が開かれ始めました。」

当初、マルシアは大学で生物学を勉強したいと思っていました。しかしそんな彼女の計画は思い通りにならず、結局、希望した大学にも入れなかったばかりか、住む場所も見つけることが出来なかったのです。彼女は、必死に祈りました。「神様、私はこれまで人生をかけてあなたに信頼する人たちを沢山見てきました。今わたしもあなたに信頼します。私はどうすればいいのですか？」

そんなある日、インスタグラムで短期宣教旅行の案内を見つけ、内容は日本で英語を教えることでした。「主の導きに従って専攻を変えたからこそ、参加できるようになりました。もし変えていなかったら無理だったとはっきり分かりました。」参加費用を支払う時も、神様はマルシアの為に扉を開いてくださいました。「今の仕事のままだったら、参加費を払うのに4年間かかりました。ある意味不可能なことでした。でも神様は半年でその費用を満たして下さったのです。」

マルシアは教会を巡回訪問するようになりました。「毎週、違う教会を訪問し、短期宣教旅行について話をしました。又、宣教について、宣教にどうやって関わることができるかを話しました。神様は多くの人の心に触れて下さって、経済的支援をして下さる人も与えられるようになりました。訪問した教会は40を超えていると思います。」

「教会訪問を始めたときは、私には恐れがありました。どうやってサポートを集めたらいいのだろう？アルゼンチンで

は、宣教のために経済的支援を呼びかけることは一般的ではなかったからです。

加えて、国は経済的な危機の中にありました。しかし、父はこう言うてくれました。『お金を募るのでなく、祈りを募るんだよ。神様が彼らの心に捧げるように語られたら、与えられるものだからね。』と。父は、私は、自分の人生を捧げて出て行き、教会は出て行く人を支える務めがあること、宣教は出て行く人だけに託された働きではなく、教会に与えられ使命なのだと話してくれました。そして、私が話した人たちもこのことを理解し、この宣教に加わってくださるようになりました。私を遣わすのは、一つの教会に限らず、キリストのからだ全体なのです。」

フリーハグ

6か月後、マルシアは日本に到着し、カンファレンスに参加した後、主に子供たちの働きに関わりました。歌ったり、ウクレレで演奏したり、ミニストリーセンターの清掃や子供向けプログラム等のお手伝いをしました。

ある日、彼女のチームは近隣の市の夏祭りへ行き、「フリーハグ」と書いた紙を持って路上に立ちました。「ワクワクしていましたが、疑いもありました。」とマルシアはその時のことを振り返ります。「私たちのリーダーがこのアイデアを提案したのですが、本当に私たちと話してくれる人はいるのかと内心、半信半疑でした。」

しかし、彼女は人々の反応に驚かされました。「私たちがしていることに興味を持つ人が大勢いたのです。彼らは私たちに質問をして、私たちがイエス様について語ることに耳を傾けてくれました。本当に驚きでした。これから仕事に行く人たちもいましたが、彼らもわざわざ足を止めて、話をしてくれたのです。」

この宣教旅行の前、マルシアは自分には誰かを助けられるような言葉かけはで

きないと思っていました。「しかし、イエス様が私の内に生きておられるということほど偉大な事はないと気が付きました。これは誰もが必要としていることです。人々がどこにいても、どんなニーズがあったとしても、私たち皆、イエス様が必要です。」

“日本はクリスチャン人口が約1.5%しかないので、キリストを証しするには人が足りていないのです”

アルゼンチンでは、路上で説教をしたり、神様との関係について人々に尋ねたりすることはよくある光景だとマルシアは語ります。「私はそれが普通だと思っていました。しかし、日本にはクリスチャン人口が約1.5%しかないので、キリストを証しする人が十分にいないわけです。」

アルゼンチンに戻って

アルゼンチンに戻った今、マルシアは卒業まであと1年ありますが、彼女はすでに地域の子供たちに英語を教えています。「私は長期で日本に行きたいと思っています。2021年には日本に戻れるよう願っています。」とマルシアは答えました。

彼女の目標は、人々がアルゼンチンに居ながらも、宣教の為に祈ることから、経済的支援に至るまで、様々な形で宣教に携わることが出来るということをお伝え、励ますことです。「キリストの体として教会を考える時、宣教師は足の役割を担っていると思います。でも足は体なしにどこにも行くことはできません。同じように、私も準備する中で、教会が宣教の働きを担っていくことができるように励ましたいと思っています。」



イスラエル人の教会という視点を変える



イスラエル

クリストファーは、アメリカ人牧師の息子として、イスラエルから地球の反対側となる場所で育ちました。しかし彼は、ナザレ育ちのアラブ人の妻と出会ったとき、神様は二人を聖地でフルタイムの働き人として用いようとしていることに気づきました。



彼らが働きを始めてまもなく、クリストファーはイスラエルで福音を伝える中、大きな壁に直面しました。多くの教会や信徒の人は、地域の人々への伝道に大変苦労していました。というのも、ユダヤ教徒やイスラム教徒の人達にとって、教会に行くということには大きな抵抗が伴っていたのです。実際、ユダヤ教やイスラム教にとって、教会という建築物はタブーとして見られていました。新しい求道者を教会に連れていくと、語られている神のみことばに耳を傾けるより、タブーなことをしているという現実が彼らの意識を優先してしまうのです。クリストファー夫妻の友人はある時、新しい人を教会に連れてきましたが、到着して彼女は「あら、ここは教会だったの?」と言って帰ってしまいました。

クリストファー夫妻は、「失われた人たちに福音を聞いてほしい」という思いでイスラエルに移り住みました。OMと共に活動を始め、彼らのビジョンは、興味を表した人たちに福音を分かち合い、フォローアップすることでした。しかし、多くのクリスチャンが直面していた問題は、彼らがフォローアップし、弟子訓練したい人たちは、イエス様のことはもっと知りたいと思っても、教会の建物には入ることを避けているという現実でした。

家庭集会を通して壁を取り除く

この問題を解決するために、クリストファーはイスラエル各地で家庭集会をスタートさせ、うまく継続できるよう、手

助けをしています。家庭集会では、ディスカバリー バイブルスタディー (DBS) という学びの方法を用いて、シンプルな質問を投げかけながら聖書の学びを進めます。このスタイルは、自分が学んだことを友人や隣人と分かち合うことを励まし、いつも互いにケアし合う関係を維持し、グループがどんどん増えていくことを目的としています。このような学びは正統派ユダヤ教の中でも一般的で、クリスチャンの学びでも有益な方法です。

伝統的な教会の外で活動することで、これまであった障害が取り除かれました。聖書を学びたいという人たちが、教会の十字架や、政治や、社会的プレッシャーに気を取られないで、福音の核となる部分に目を向けることができるのです。又、家庭集会の存在は、クリスチャンも人々と神の言葉を愛する普通の人たちだということを、周りの人々に知らせるきっかけにもなりました。

小グループの中で信仰を持つと、彼らはすぐに神様が与えておられる霊の賜物を用い、熱心に祈り、グループをリードし、他の人を弟子訓練し、コミュニティで信仰を分かち合うようになり、信仰がとても早く成長します。

クリストファーは、「最初は、一対一の聖書の学びが適していると思ったのですが、それはあまりうまくいきませんでした。イスラエル人にとって家庭の環境の中での学びは、気持ちが楽になり、気まずいこともなく、他のどんな方法よりも効果的でした。」と語っています。



行こう

イスラエルを祝福する祈りの旅

宣教の第一線で活動する人達に寄り添い、あなたの賜物を用いてその地を祝福し、主の御業の前進と、キリストの愛が崇められるように共に祈りませんか。プログラムの内容は、重要文化スポットの訪問、御国の為に現地で働く人々との出会い、各地でのプレーヤーウォークとローカルの人々との交流などです。

このプログラムは特に仕事に就いているため、長期休暇を取り、中東での異文化訓練や伝道活動に参加しにくい方々の為に計画されています。

日程：2020年11月29日～12月6日

締め切り：2020年9月15日

年齢：18～70歳

費用：約1130 USドル

OM 短期宣教募集要項

これまでに、クリストファーはイスラエル各地で、20以上もの小グループが始まるのを見てきました。彼は、小グループの中だけなら聖書の話をしてもいい、という女性にも出会ったことがあります。その家庭集会の中では、彼女はとてもオープンで、会話にも積極的に参加しました。クリストファーはそれを見て、「本当に理想的な伝道のスタイルじゃないか」と語っています。

イスラエルでの伝道の為に、長期で参加する働き人がより多く与えられるよう祈りましょう。小グループ伝道に携わる人々の為に、彼らの友人や家族が新しい家庭集会に導かれ、神のみことばにある真理を体験できるように。

OM 短期宣教募集要項

*ここに紹介したのはごく一部です。OMは世界 110 개국で活動するグローバル団体です。短期宣教の募集要項は常時 250 件ほどあります。興味のある方は、info.jp@om.org まで、気軽にご相談ください。

ボランティア特別プログラム

- 📍 イギリス 📅 1ヶ月から4ヶ月まで（1年中可能）
- 📌 プログラムの内容は、参加者の要望に応じて対応します。‘信仰の成長を願っている’、‘神様の働きを見て宣教について学びたい’、‘多民族コミュニティの中の現地教会と共に働きたい’、‘実際の作業に携わりたい’等、このプログラムは参加者が仕え、成長する機会を提供します。
- 📅 締め切り：出発予定日の2ヶ月前
- ✅ 年齢：上限なし
- 💰 費用：毎月約650USD

希望を難民の子供達へ

- 📍 エジプト 📅 2021年6月2日-6月15日延長可能
- 📌 貧しい難民の子供達に、聖書を土台とした質の高い基礎教育を提供。チームはクリエイティブに福音を伝え、危険にさらされている子供達の希望を回復します。年齢：18-75才
- 📅 締め切り：2021年4月20日
- 💰 約970USD
- ✅ 年齢：18-75才

ムスリムアウトリーチ

- 📍 キルギス 📅 2週間-6ヶ月（1年中可能）
- 📌 1年の中で希望する時期に数週間から数ヶ月間を美しい中央アジアで冒険しませんか？ 孤児院活動、スポーツ、家々でのもてなしを楽しむ、宣教地での実生活を体験し、現地のムスリムの人々に福音を分かち合う機会も。夏にはサマーキャンプが企画され、地元の学生達とあなたの賜物を分かち合ってください！又、現地の孤児院で子供達と遊び、ライフスキルを教えながら、彼らに伝える働きもあります。
- 📅 締め切り：出発予定日の2ヶ月前
- ✅ 年齢：18-60才
- 💰 費用：毎月約460USD

事務局スタッフ募集中

- 📍 日本 📅 1年間～
- 📌 OM日本では宣教師の派遣と受入れに関する人事と会計、記事の翻訳（和英）などの働きに携わるスタッフを求めています。世界のOMに属する全員は支援者からのサポートを得て宣教師としての立場で奉仕しています。世界宣教の前線を支える事務局での働きに、ビジョンと重荷が与えられていませんか？関心のある方は事務局までぜひ一報を。

芸術宣教トレーニング

- 📍 台湾 📅 2021年1月30日-5月22日
- 📌 インカーネイト (Incarnate) はアーティストの為の弟子訓練、神学と異文化の学びを提供するミニストリーです。アーティストとしての才能を磨き、神様の目に映るあなたの芸術家としての重要性が理解できます。神の御国における創造性や芸術に関する神学も学ぶことができます。あなたの芸術性ももちいて、世の人々、特に福音の伝えられていない人々が神様に目を向ける方法を共に探求しましょう。
- 📅 締め切り：2020年9月15日
- ✅ 年齢：18-65才
- 💰 費用：約6310USD

ホスピタリティセンターでのボランティア

- 📍 ドイツ 📅 2週間から6ヶ月まで
- 📌 人に仕えることが好きで、人々が愛され、歓迎されていると感じる手助けをしたいと願っておられますか？ 宣教トレーニングを提供するこのゲストハウスでボランティアを必要としています。OMドイツのホスピタリティチームと共に宿泊部屋の準備、施設内の清掃、コーヒータムの準備、洗濯、料理、食器洗い等の奉仕があります。
- 📅 締め切り：出発予定日の2ヶ月前
- ✅ 年齢：18-70才（1日8時間労働、ほとんどの時間は立ち仕事为中心）
- 💰 費用：なし

Print Media Volunteer 国内奉仕者を探しています

プログラム期間: 期間・期限なし

作業内容: OM奉仕者の名刺づくりや、6ヶ月毎に発行されるGlobalニュースレターのレイアウトなど。

資格条件:

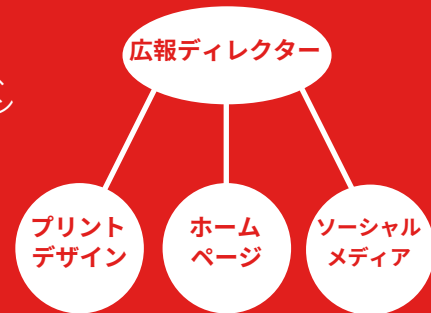
グラフィックデザインの訓練、仕事経験のある人。国内で高速インターネットの環境があれば、場所は問いません。

アドビのデザインソフトウェア

(Photoshop, Illustrator, InDesignなど) を自分で所持し、また使いこなすことができること



OMの広報ディレクターの指示に従い、またOM国際のブランディングガイドラインに沿ってのプリント製品のデザインができること。



参加者国籍 & 言語

: 日本人である必要はありませんが、日本語を読めることが必須となってきます。The position is not limited to Japanese, but being able to read/write Japanese language is crucial.

あなたの特殊な才能を主のためにつかってみませんか。どうぞOM事務局までご連絡ください！

🎁 捧げよう

OMの働きを覚えてご支援下さい。



📌 OM日本事務局支援献金

OM日本事務局の運営と宣教師の派遣業務は、献金によって行われています。事務局のスタッフは全員、ボランティアであり、家族や友人、教会からの経済的なサポートによって活動を続けています。みなさんの献金は、事務局の運営費とサポート額が十分でないスタッフの支援金として当てられます。

連絡先 & 献金送金先

特定のミニストリー、プロジェクト、宣教地、宣教師のための支援金を送って下さる方は、振込用紙の通信欄に送金内容をご明記の上、OM日本の口座にご送金くださいますよう、お願いいたします。

- 🌐 www.omjapan.org/give
- 📠 郵便振替口座 02100-0-24998
加入者名「OM日本事務局」

キリストに従う仲間たちへ、

新型コロナウイルス拡大防止の為に新しい生活様式は、大多数の人には「普通」になってきたことではないでしょうか。在宅勤務（テレワーク）に始まり、社会的距離（ソーシャルディスタンス）、オンラインのミーティングや授業など数あります。しかし、そんな中で変わっていないことがあります。それは地の果てまで福音は伝えられなければならないという必要性であり、そして様々な社会的制限が増す中も、福音の持つ力には何の制限もないということです！

南アジアに住むプレカッシュ（仮名）は過去にOM宣教師によって弟子訓練を受けたことがあるクリスチャンのリーダーです。今回のロックダウンの最中、プレカッシュは自分が関わるコミュニティの人々に電話をかけ、彼らに聖書を読むよう、祈るよう、そして周囲の人々に証するよう励ましました。

そんな中、5人の呪術師とその家族がプレカッシュの働きを通してイエス様を信じました。何人かは、病気だった家族が癒されたことで信仰を持ち、他の家族はOMのメンバーが配布した聖書や本を読み、またSDカードを通して受け取ったオーディオメッセージを聴いていました。神の言葉を聴いたり読んだりするうちに、その家族はプレカッシュに連絡を取り、イエスについてもっと話を聞きたいと伝えました。そして5人の呪術師の家族、28人全員がイエスを救い主として受け入れたのです。

このストーリーは福音が地の果てまで多く伝えられていることを証しているのと同時に、「福音を隔離する」ことは誰にもできないことを表しています！

一方で、このパンデミックによる経済的影響は各国で奉仕する宣教師達の生活やミニストリーにのしかかってきているのも事実です。宣教の第一線で活動する多くのワーカーが経済的困難にあり、そして経済的サポートの減少により、家族を養ったりミニストリーを継続していくことが難しくなっているのが現状です。

そんな中、宣教の働きを続けていく為にみなさんのご協力を是非いただけませんか。皆さんの献金は神様の愛を知らない人々の間で続けられるミニストリーと、そこで活動する宣教師とその家族の必要の為に用いられます。

私たちのヴィジョン世界中の「最も福音が伝えられていない人々の間で、イエスに従う者による生き生きとしたコミュニティが形づくられる」ため、これからも皆さんの祈り、献金、そして宣教への参加を通して、共に主に仕えることができるよう心から願っています！

栄光在主
スミスドルフ スティーブン
OM日本 代表

スティーブン スミスドルフ
OM日本代表、妻の契子と3人の子供達、モーゼ(19)、恵真(15)、ヨハン(12)と共に宮城県在住



新型コロナウイルス（COVID-19）によるOMへの影響について

新型コロナウイルスは今や世界的流行（パンデミック）となり、私たちの身の回りにもたくさんの影響を及ぼしています。世界110カ国で活動するOM宣教団体も例外ではありません。

現在OM日本より派遣されている宣教師（日本国内と海外含む）は全員の安否が確認されています。



新型コロナウイルス（COVID19）による緊急事態のなか、OM宣教師たちの働きを観てみよう（英語ビデオ）

OMのミッションステートメント：
私たちの願いは、最も福音が伝えられていない人々の間で、イエスに従う者による生き生きとしたコミュニティが形づくられることです

- OM (Operation Mobilisation) は、世界約110カ国で3200名が活動している世界宣教団体です。OMは世界における世界宣教のために
- 奉仕者の育成を行っています。特に最も福音が伝えられていない地域
- に重点を置き、イエスに従うものによる生き生きとしたコミュニティ
- が形づくられ、それらが育成されていくことを目標にしています。

OM日本・OM Japan

www.omjapan.org fb.me/omjapan info.jp@om.org

+81 (0)76-239-2830 (TEL&FAX) 〒920-0277 石川県河北郡内灘町千鳥台2丁目394

郵便振替口座 02100-0-24998 加入者名「OM日本事務局」

OM日本ニュース 第84号 2020年 夏
発行人：スティーブン スミスドルフ

編集&デザイン：近藤健二

